

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ （2022年5月10日放送分・「北二番丁／堤通」）

毎月第1火曜日に放送しています。（今月は第2火曜日にお送りしました。）歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 芭蕉の辻から奥州街道（現在の国分町通）を北上する旅の途中です。今月は国分町通と、北一番丁（県庁および仙台市役所のすぐ裏の通り）からスタート。木村さん、さっそく西側に寄り道して市役所の二日町分庁舎前へ。玄関前に「仙台藩町奉行所跡」の看板が…。ここには幕末に、町奉行が執務を行なった屋敷がありました。同時期、同じような場所が現在の国際ホテルの近くにもあり、城下の北と南で月ごとの交代制により町政を担っていたのです。
- さて、今回の寄り道はもう1カ所。北一番丁と二番丁の間、ローソン仙台二日町中央店から西に入った児童公園内です。このコーナーではこれまで、多くの藩政時代の痕跡を訪ねてきました。今回ご紹介する「村境榎稻荷大明神」（写真）は、仙台開府以前の村境がこの辺にあったことを示しています。いわば、中世の痕跡なのです！その村とは、荒巻村と小田原村。どちらも現在の仙台市内に、その名を残している地名ですね。

- というわけで、寄り道が濃すぎて肝心の辻標「北二番丁／堤通」がオマケみたいになってしまった、今月の歴史散歩なのでした。
- <文・佐々木淳吾>

